

# 川島遺跡の調査 (第6次)

—太子町道天満山村西線道路改良工事に先立つ遺跡確認調査—



1993年1月

太子町教育委員会

## 例言

- 1 本書は、太子町道天満山村西線道路改良工事に先立ち実施した遺跡確認調査の概要報告である。
- 2 調査は、兵庫県播磨郡太子町太田字山ノ下1708-1番地外10筆において、平成4年11月9日から同11日にかけて実施したものである。
- 3 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、海野浩幸が担当した。
- 4 調査・整理作業に当たっては、太子町シルバー人材センター、森崎宏子、岩村千穂、小山真紀各氏の協力を得た。
- 5 本書の執筆・編集は、海野浩幸が担当した。

## 本文目次

### 例言

調査に至る経過	2
調査の概要	2
遺構	4
出土遺物	5
まとめ	11

### 挿図・表目次

第1図 周辺主要遺跡分布図	1	第7図 遺物実測図(2)	6
第2図 調査位置図	2	第8図 遺物実測図(3)	7
第3図 グリッド配置図	2	第9図 遺物実測図(4)	8
第4図 土層実測図	3	表1 遺物観察表(1)	9
第5図 遺構測図	4	表2 遺物観察表(2)	10
第6図 遺物実測図(1)	5		

### 図版目次

写真1 調査地全景	写真3 上. G-3土層 下. G-5土層
写真2 上. G-1土層 下. G-3全景	写真4 上. G-6土層 下. G-8土層



第1図 周辺主要遺跡分布図 国土地理院 1/25,000(綱干)

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1 調査地点    | 9 黒岡山古墳群  |
| 2 川島遺跡    | 10 瓢塚古墳   |
| 3 川島川床遺跡  | 11 檀特山古墳群 |
| 4 丁・柳ヶ瀬遺跡 | 12 郷ノ谷古墳群 |
| 5 檀特山遺跡   | 13 塚村古墳群  |
| 6 太田・田中遺跡 | 14 丁古墳群   |
| 7 原坂遺跡    | 15 山戸古墳群  |
| 8 黒岡山墳墓群  | 16 下太田廃寺  |

## 川島遺跡の調査 (第6次調査)

### 1 所在地

兵庫県揖保郡太子町太田字山ノ下  
1708-1番地外10筆

### 2 調査主体者

太子町教育委員会

### 3 調査担当者

三村修次、海野浩幸

### 4 調査期間

平成4年11月9日～11日

### 5 調査面積

40㎡

### 6 記録作成土層断面図(1/20)・遺構実測図(1/20)・遺物実測図(1/1)

写真(モノクロ35mm, カラー35mm, カラーリバーサル35mm,)



第2図 調査位置図 (1/10,000)

### 7 調査に至る経過

周知の遺跡である川島遺跡は、太津茂川東岸に所在する弥生時代中期から平安時代にかけての遺跡である。山陽新幹線建設に伴う発掘調査では東西約400mの範囲で、竪穴式住居址、掘立柱建物、周溝基土坑墓、壺棺墓、柱穴、土坑、溝等の多数の遺構が検出されている。

今回、山陽新幹線調査地点より東南方約400mの地点において、太子町道天満山村西線の道路改良工事が行なわれる事になり、これに先立ち、遺跡の確認調査を実施したものである。調査対象地は、標高7.70m前後の水田である。

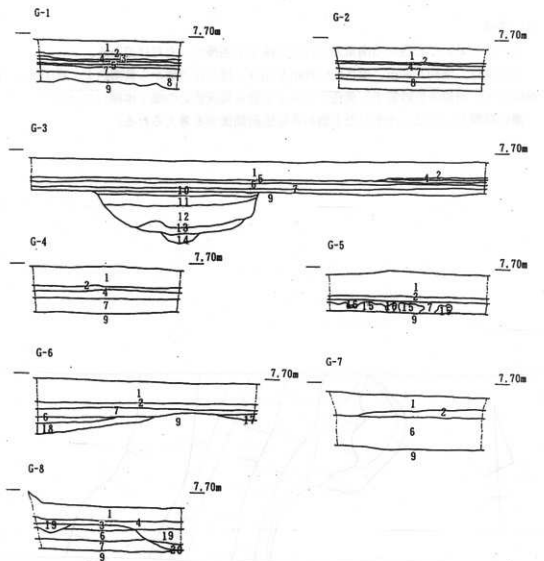
### 8 調査の概要

調査は、2×2mのグリッドを8箇所設定して実施し、随時拡張、増設するものとした。

各グリッドの基本的土層は、約20cmの耕土の下に6～18cmの床土があり、その下層に中世の遺物を包含した10～20cmの明灰色粘質土が続き、黄色粘質土の地山となる。この地山はG-6付近から東方に落込んで行くのが観察された。



第3図 グリッド配置図 (1/2,500)



- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1 耕土               | 11 褐灰色土               |
| 2 黄色土 (床土)         | 12 暗褐灰色土              |
| 3 黄灰色土 (床土)        | 13 暗褐灰色砂質土            |
| 4 淡灰黄色土 (床土)       | 14 暗褐灰色粘質土 (黄色土ブロック混) |
| 5 淡黄色土 (床土)        | 15 黄褐灰色土              |
| 6 淡灰黄色粘質土 (中世遺物包含) | 16 明灰色粘質土             |
| 7 灰色粘質土 (中世遺物包含)   | 17 明灰色粘砂質土            |
| 8 暗茶褐色粘質土          | 18 灰黄色粘質土             |
| 9 黄色粘質土・地山         | 19 淡褐灰色土 (攪乱層)        |
| 10 黄褐色土            | 20 暗灰色砂質土 (攪乱層)       |

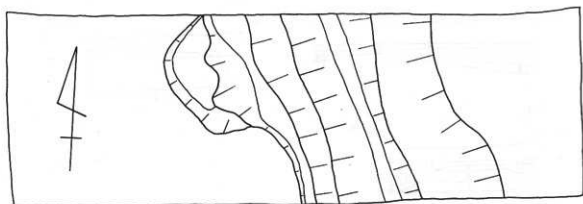
第4図 土層実測図

## 9 遺構

G-3において北西から南東方向に走る溝を1条検出しただけである。

この溝は、幅約2.00m、深さ約0.70mを測り、埋土は上層から黄褐色土、褐灰色土、暗褐灰色土、暗褐灰色砂質土、黄色土ブロック混暗褐灰色土の順で堆積していた。

溝の時期としては、出土した土器から弥生前期後半と考えられる。



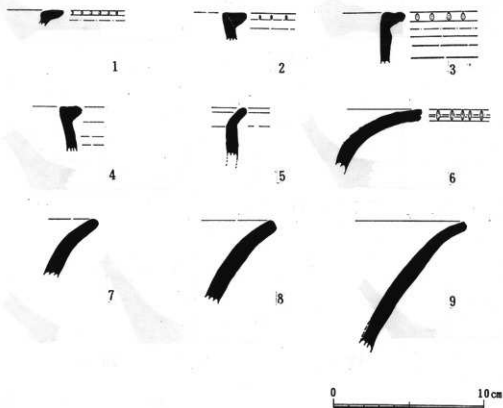
第5図 遺構実測図

10 出土遺物

今回の確認調査では各グリットから出土が見られ、総数にしてコンテナ6箱分になった器種としては、弥生式土器 壺・甕（1～21）、土師器 羽釜（22）、瓦質土器 土埴（23）、須恵器 坏・碗・甕・捏鉢（24～30）、近世陶磁器 碗・皿（31～36）、布目瓦（37）等である。

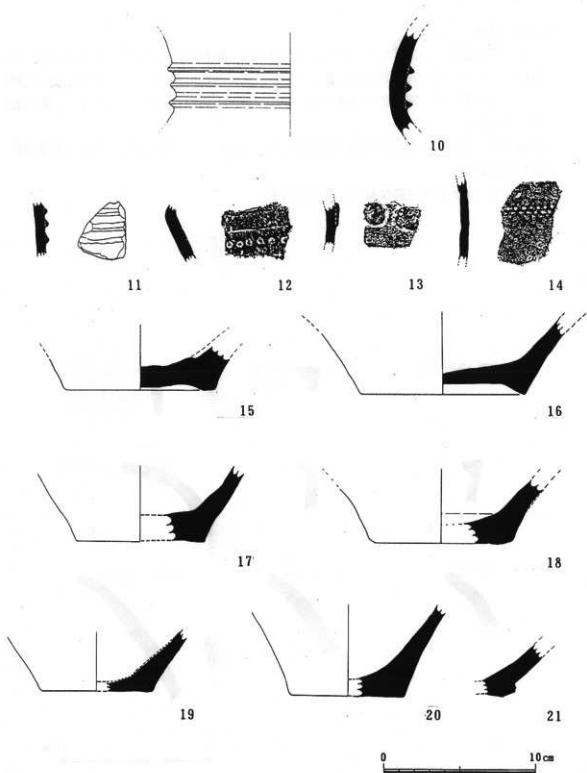
遺構に伴うものは、G-3の溝状遺構から出土した弥生式土器のみで、他は流れ込みによるものであった。

ここでは、実測図化可能なもの37点を示す。

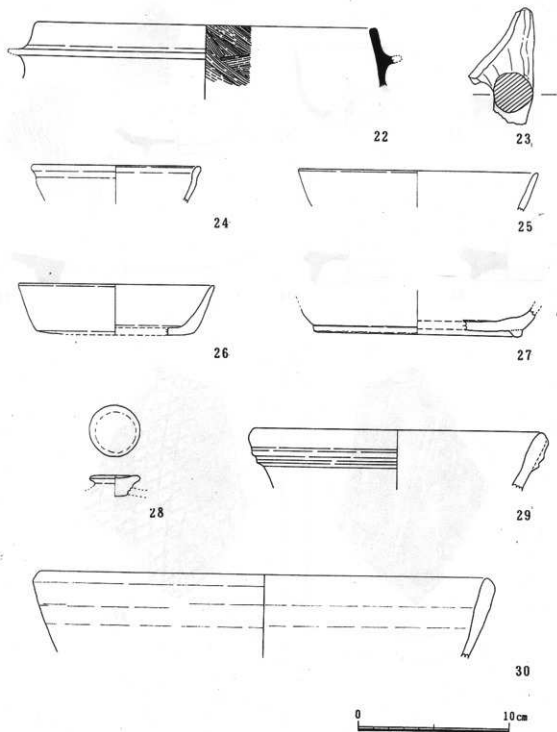


第6図 遺物実測図（1）

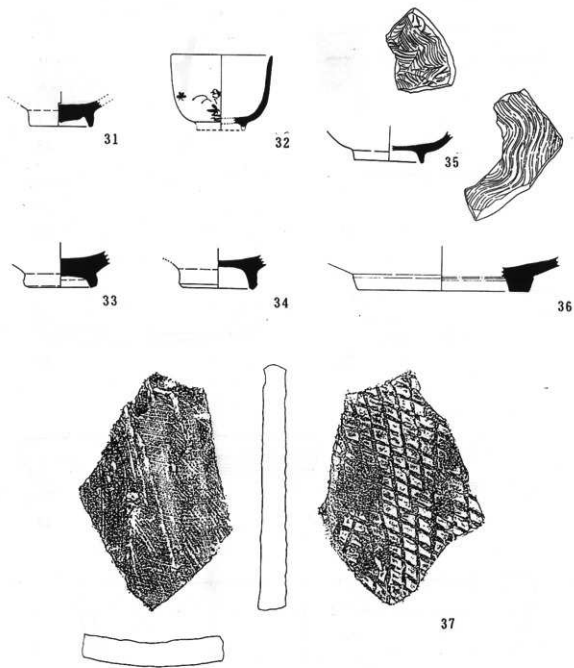




第7图 遗物实测图(2)



第8图 遺物実測图(3)



0 10 cm

第9図 遺物実測図(4)

番号	器種	出土遺構	法量	色調	調整 その他
1	弥生甕	G-3 溝	—	内-淡黄褐色 外-淡黄褐色	口縁刻目 調整不明 焼成良好 胎土1~2 mm大の小石粒含
2	弥生甕	G-3 溝	—	内-淡黄褐色 外-黒色	口縁刻目 調整ナド 焼成良好 胎土0.5~1 mm大の砂粒含
3	弥生甕	G-3 溝	—	内-明白褐色 外-明白褐色	口縁刻目 調整ナド 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒多く含
4	弥生甕	G-3 溝	—	内-淡赤褐色 外-淡赤褐色	調整不明 焼成やや軟 胎土1~2 mm大の砂粒含
5	弥生甕	G-3 溝	—	内-淡白褐色 外-淡灰褐色	調整不明 焼成良好 胎土0.5~2 mm大の砂粒含
6	弥生甕	G-3 溝	—	内-明白褐色 外-明白褐色	口縁刻目 調整不明 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒多く含
7	弥生甕	G-3 溝	—	内-明白褐色 外-明白褐色	調整不明 焼成やや軟 胎土1mm大の砂粒含
8	弥生甕	G-3 溝	—	内-淡白褐色 外-淡黄灰褐色	調整不明 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒多く含
9	弥生甕	G-3 溝	—	内-明褐色 外-淡赤褐色	調整不明 焼成良好 胎土1~3 mm大の砂粒多く含
10	弥生甕	G-3	頸部 径 16	内-明白褐色 外-淡褐色	貼り付け凸帯 調整不明 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒含
11	弥生甕	G-3	—	内-明黄白色 外-明黄白色	貼り付け凸帯 調整不明 焼成良好 胎土0.5~1 mm大の砂粒含
12	弥生甕	G-3	—	内-褐灰色 外-褐灰色	竹筥文 ヘラ書印 調整不明 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒含
13	弥生甕	G-3	—	内-褐白色 外-褐白色	円形浮文 調整不明 焼成良好 胎土0.5~2 mm大の砂粒含
14	弥生甕	G-3	—	内-暗灰色 外-淡赤褐色	刻交文 調整不明 焼成やや軟 胎土0.5~1 mm大の砂粒含
15	弥生底部	G-3	—	内-明黄褐色 外-明白褐色	黒斑 調整不明 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒含
16	弥生底部	G-3	底径 10.2	内-淡白褐色 外-淡黄白褐色	調整外面へら削り 外面ナド 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒多く含
17	弥生底部	G-3	底径 11.0	内-淡赤褐色 外-明黄白色	調整不明 焼成良好 胎土0.5~2 mm大の砂粒多く含
18	弥生底部	G-3	底径 8.6	内-黒灰 外-淡白褐色 一部黒斑	調整不明 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒多く含
19	弥生底部	G-3	底径 9.6	内-淡褐白色 外-淡赤褐白色	調整不明 焼成良好 胎土1~2 mm大の砂粒多く含

※法量の単位はcm

遺物観察表(1)

番号	器種	出土遺構	法量	色調	調整 その他
20	弥生器 底部	G-3	底径 7.6	内-淡褐色 外-淡赤褐色	調整外面ナデ 内面不明 焼成良好 胎土1~2mm大の砂粒含
21	弥生器 底部	G-3	底径 7.8	内-暗褐色 外-明褐色	調整不明 焼成良好 胎土1~2mm大の砂粒多く含
22	土師器 羽釜	G-2	口径 22.6	内-淡黄褐色 外-淡黄褐色	調整内面ハケ目 外面ヨコナデ 焼成良好 胎土細砂粒含
23	瓦質土器 土鍋	G-1	径 2.6	内-明褐色 外-黒灰色	調整不明 焼成良好 胎土0.5~1mm大の砂粒含
24	須恵器 碗	G-1	口径 11.4	内-明灰色 外-明灰色	調整内外面ヨコナデ 焼成良好 胎土密
25	須恵器 碗	G-1	口径 16.0	内-灰色 外-灰色 口縁部黒灰	調整内外面ヨコナデ 焼成良好 胎土密
26	須恵器 環	G-3	口径 13.0 底径 10.5 器高 3.3	内-明灰色 外-明灰色	調整内外面ヨコナデ 外底部ヘラ削り 焼成良好 胎土密
27	須恵器 環	G-3	高台径 13.8	内-明灰色 外-明灰色	調整内外面ヨコナデ 貼り付け高台 焼成堅緻 胎土小石粒わずかに含
28	須恵器 環 つまみ	G-2	径 3.4	明灰色	調整ヨコナデ 焼成堅緻 胎土密
29	須恵器 甕	G-1	口径 19	内-明灰色 外-明灰色	調整不明 焼成軟 胎土細砂粒含
30	須恵器 埴鉢	G-1	口径 29.7	内-明灰色 外-明灰色 口縁部黒灰色	調整ヨコナデ 焼成堅緻 胎土密
31	伊万里焼系 碗	G-8 攪乱	高台径 4.2	内-明緑青色の軸 外-明緑青色の軸	調整股軸の為不明 焼成堅緻 胎土密
32	伊万里焼系 碗	G-8 攪乱	口径 6.8	内-明青白色 外-淡緑白色	調整股軸の為不明 外面草花文染めつけ 胎土密 焼成堅緻
33	京焼系 碗	G-8 攪乱	高台径 4.8	内-明褐色 外-明褐色	調整股軸の為不明 内外面に細かい貫入 胎土密 焼成良好
34	京焼系 碗	G-8 攪乱	高台径 5.3	内-明褐色 外-明褐色	調整股軸の為不明 内外面に細かい貫入 胎土密 焼成良好
35	唐津焼系 碗	G-8 攪乱	高台径 4.7	内外-黒褐色・明青 白色のハケ目	調整股軸の為不明 焼成堅緻 胎土密
36	唐津焼系 鉢	G-8 攪乱	高台径 11.4	内-暗茶褐色・灰緑 色と白色のハケ目 外-露胎 黄茶褐色	調整内面股軸の為不明 外面ヨコナデ 焼成堅緻 胎土密
37	布目瓦	G-3	厚 1.5	内外-淡灰色	調整内-布目 ナデ 凸-斜格子たたき ナデ 焼成堅緻 胎土密

※法量の単位はcm

遺物観察表(2)

## 11 まとめ

今回の確認調査地区では、川島遺跡に関連する遺構は検出されず、遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。ただ、弥生時代前期後半の溝を検出する事により、この時代の遺跡を新たに想定する資料を得る事が出来た。

今回確認された弥生時代前期後半の溝に関しては、限られた調査範囲のためその性格を把握することは出来なかった。溝の性格及、溝に関連する遺跡の所在については、今後の調査を待つものである。





調査地全景（西から）



調査地全景（東から）





G-1 土層断面 (北から)



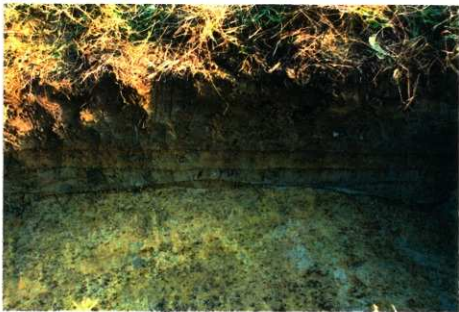
G-3 全景 (東から)



G-3 溝土層断面（北から）



G-5 土層断面（北から）



G-6土層断面（北から）



G-8土層断面（北から）

